

危険物取扱者甲種取得までの道のり

はじめに

私は中学のときから早く就職して自立したい、早くお金を稼ぎたいという思いを持っていました。そこでこの高校に進むことで就職できるのかと考えたところ、就職するなら熊本工業高校が一番良いと思い、入学しました。また、私には2つ上の兄が在籍していたこともあり、工業化学科を選択しました。危険物取扱者という資格があるのは入学する前から自分で調べたり、兄から教わっていたりと言うこともあり、化学の仕事に就く上では欠かせない資格であることを知っていましたが、専門科目を学んでいくうちに危険物取扱者という資格がどれだけ大事な資格であるかを知ることができました。それから私は、危険物取扱者の資格を取得するのであれば危険物をすべて扱えるようになる危険物取扱者甲種の取得を目指すようになりました。

危険物取扱者乙種第4類取得に向けて

高校入学後、最初に取得を目指すのは危険物取扱者乙種4類でした。名前だけは知っていてもどんな資格なのかは知らず、いざ勉強してみようとなると何を言っているかわからないような複雑で難しいものがたくさんあり絶句しました。しかし、就職のため将来のためと考えると勉強するのが何の苦にもならず、自分からテキストを開いて勉強をしていました。

最初の資格の勉強ということもあり先生方も私達にわかるように丁寧に説明してくださったり何度も質問に答えてくださったりとサポートしてくださるおかげで、日に日に正解率が上がり嬉しかったのを今でも覚えています。しかし、毎日勉強ができていたかと言われると、そうではなく家に帰っても部活動の疲れで寝てしまっていることがあり、勉強と部活動と資格の勉強の両立がとても難しかったのも覚えています。

私はサッカー部に所属しており、毎日遅くまで練習をして電車通学である私はヘトヘトになって帰宅して資格の勉強をするということが難しく、全く家では勉強ができていませんでした。そのため私は朝課外の時間を有効活用して勉強していました。試験が近づくと先生方が毎朝朝課外を行ってくださり、最後の仕上げという形で過去問題などを解いていました。「部活動



川口 仁 かわぐち じん

熊本県立熊本工業高等学校
工業化学科3年



実習風景

の疲れから勉強ができなかったから取得できなかった。」という言い訳を自分にしなくなかったので、この朝課外の時間だけでも集中して取り組もうと思い頑張っていました。試験の前日には友人と教えあって勉強をして完璧な状態で試験に臨めたと思います。試験を受けるときは意外と緊張しておらず落ち着いて解けており、試験後は絶対合格したという確信が持てるほどでした。結果は1問を除いて正解していて、危険物取扱者甲種を目指す上での最高の一歩目だったと思います。

危険物取扱者甲種への挑戦

危険物取扱者甲種を受けるには乙種を4種類取得しなければならず、次は何を受けようかと考えましたが、甲種を目指す私はどれも受けても変わらないと思い、あまり深く考えずに3類を取得することを決めました。4類に合格したことで「法令」・「物理化学」という項目が免除され「性質」の10問中6問正解することで合格となり、合格するのが簡単になりました。だから

とって1週間前から勉強ということはせずに、空いている時間があればテキストを開いて勉強をしていました。4類以外の危険物の勉強はほぼ自主学習となるため早い段階から勉強をして、わからないことがあったら先生方に質問をするという形になり、深く理解して満点を取れるように「油断大敵」を胸に掲げて頑張った結果、3類は満点で合格することができました。このまま満点を目指して頑張ろうと決めて次に受けたのは5類と6類でした。初めての2つ同時の勉強で要領がわからず、何度も間違いを繰り返しましたが、なんとか勉強して5類も6類も両方満点を取ることができたのは嬉しかったです。そして、4類を初めて取得してから3類、5類、6類と順調に合格し、甲種を受けるために必要になるものを1年時に取得でき、余裕をもって甲種に挑むことができました。



部活動の風景

甲種合格！

甲種の試験を2年時の7月に受けると決めた私は、春休みから余裕を持って勉強を始めました。しかし、今まで順調に合格してきたからといって簡単に覚えるようにはなりません。甲種は1類から6類までの性質全部に合わせ、乙種に出題される法令や物理化学よりもはるかに難しい問題がたくさん出題されて、今まで以上に勉強しなくてはならず、余裕など全くと言っていいほどありませんでした。春休みも終わり、部活動の朝練が始まり授業の内容も1年時よりも複雑になる中で、甲種の勉強をするのは4類を勉強していた時よりも難しく大変でした。しかし、部活動の顧問の先生方には朝練を早く抜けさせていただき、工業化学科の先生方にはこれまで以上に質問などに丁寧に答えてくださったおかげで、最後までくじけずに頑張ることができました。

私も、いつもより集中してわからないことがなくなるまで、ずっと長い時間をかけて勉強しました。何回も間違えたところをやり直して問題を解き直していても、思ったように点数が伸びず悩んでいました。試験を受けるためにはお金もかかり、家族に迷惑をかけながら試験を受けると考えると、もし落ちてしまったらという焦りが試験日に近づくにつれ大きくなっていきました。このことを母親に伝えると、「落ちてでもまた受ければいい」と言ってくれました。そんな母に私は「甲種受かった」と言いたい、と思うようになり必死に勉強しました。



学校全景

試験当日、私はとても緊張して、まだやれた、もっと勉強しておけばと何回も思いました。ですが、今まで支えてくださった人たちに笑顔で報告したいと思い、集中して1問1問しっかりと解いていき、わからない問題も落ち着いて問題を読み解くことができました。終わったあとは、あまり自信がなく落ちていてもおかしくないと思いましたが、でも、合格発表の日はとても楽しみで待ち遠しかったです。そして、合格発表の日、先生からいただいた葉書をめくってみると、結果は合格。その日は急いで家まで帰り笑顔で結果を報告したのを覚えています。

最後に

私が今回危険物取扱者甲種を合格することができたのは、支えてくださった家族や先生方、友人達がいたからこそ実現したものです。決して自分一人では到底なし得なかったことが周りのサポートにより実現しました。ただこれは難しいことではないと思います。一緒にいてくれるだけで、心の支えになったり、頑張れたり、何かをしてあげなくても何かしらの支えになるということを知ることができました。これからは私の番です。これから頑張る人の支えとなれるように私も頑張っていこうと思います。

トピック topic

今回のTopicの2人は、大分県立鶴崎工業高等学校 化学工学科の生徒です。
共に、1学年の時に乙種4種類の試験に合格し、2学年の上期に甲種試験に合格しました。

甲種危険物取扱者資格取得までの道のり

1 危険物取扱者試験を受験したきっかけ

私が入学した鶴崎工業高校では資格取得に力を入れており、入学してすぐに危険物取扱者試験に向けての勉強が始まりました。就職する上で必要となる資格なので必ず取りたいと思いました。

2 乙種第4類に合格するまで

私の学校では専門科の授業だけでなく、朝や放課後の補習を通して、合格に向けての勉強をしていきました。初めは、聞いたことのない物品名がたくさん出てたいへんでしたが、勉強をしていくうちに少しずつ覚えることができるようになりました。

ある程度知識を頭に入れてからは、問題演習に取り組みました。まずは購入したテキストを何回も解き、間違えた所には印をつけて勉強しました。「物理化学」でわからないところは先生に聞き、理解するまで教えてもらいました。「物理化学」や「性質・消火」は語呂合わせをして、ポイントをおさえながら覚えていきました。試験前1ヶ月頃から模試に取り組み始めました。模試を解くとき、「7・8割取れたら合格」と目標を高く設定し、合格点に達したと安心しないように気を引き締めていました。試験日の1週間前には常に7割以上の点数が取れるようになりました。おかげで、試験当日、落ち着いて試験を受けることができ、無事に合格することができました。

3 甲種の受験資格を取るために

乙種第4類を取ったことで、乙種全類もとりたいたいと思いました。乙種第4類の試験で勉強方法を掴むことができたので、試験日まで、毎日1時間から2時間を目安に勉強しました。第3・5・6類を同時に受験する上で、とにかく各類の内容が混ざらないように気をつけました。まずは、各類の物品をノートにまとめ、頭に入れてから模試に取り組みました。各類に頻出の部品を自分で整理して重点的に覚えました。そのおかげで、自信を持って解答することができ、無事、3つとも受かることができました。



高橋 優奈 たかはし ゆな

大分県立鶴崎工業高等学校
化学工学科 3年

で、自信を持って解答することができ、無事、3つとも受かることができました。

4 甲種合格を目指して

甲種は、乙種よりもかなり難しいと聞いていたので、教科書を購入した日から努力しました。私の学校では、放課後に甲種のセミナーが開かれていました。月曜日・水曜日は「物理化学」を、金曜日は「法令」を教えてもらいました。主に甲種の教科書から、出そうな問題の演習を繰り返しました。「性質・消火」は個人で勉強をしました。後半は、主に教科書に載っている問題や模試を解いていきました。特に大事なところは赤いペンで描いて目立つように書きました。理解できない問題はわかるまで先生に教えてもらいました。試験1ヶ月前には、模試で6割ぐらいの点数が取れるようになっていました。そこでかなり自信ができました。試験の時は2時間30分全てを使い切りました。合格をもらえたのは、しっかり見直せたおかげかなと思います。

5 最後に

危険物取扱者の勉強をする上で、教科書や模試の問題をたくさん解くことが大切だと思います。問題傾向も掴めるし、自分がわかっていない部分を明確にできるため、勉強を進めやすいと思います。

今回の勉強法を他の資格取得でも活かしていこうと思います。



令和5年1月26日撮影

11名（3年生6名及び2年生5名）が高校在学中に甲種危険物取扱者試験に合格しました。

（すべての人数が本校にとって過去最高）

甲種危険物取扱者試験に合格して

1 危険物取扱者試験を受験したきっかけ

私は鶴崎工業に入学して、化学工学科の1年が全員、危険物取扱者乙種第4類試験を受験することを知り受験に臨みました。

2 乙種第4類に合格するまで

「法令」の勉強では、覚えることがたくさんありました。「物理化学」では、今までの知識でもわかることが多かったのも、すぐに理解できました。「性質・消火」は、自分が興味があった分野なので、楽しく勉強をしました。試験当日、会場に初めて行ったので少し緊張しました。でも、一回で合格できたのでとても嬉しかったです。

3 甲種の受験資格を取るために

乙種第4類の免状が届いた数ヶ月後、乙種第3類、第5類、第6類、の受験をしました。正答率を上げるために問題を何度も解きました。この時に乙種第3類、第5類は合格しましたが、第6類のみ不合格だったので再び勉強しなおして受験し、高い正答率で合格しました。

4 甲種合格を目指して

乙種第3・4・5・6類の免状を取得し、甲種受験資格が揃った後、乙種全類取得か甲種に挑戦するか迷いました。先生に相談したところ、乙種4種類で受験可能だと背中を押してもらい、2年生の6月に甲種に挑戦することを決めました。

甲種の勉強を始める時に、辞典と同じくらいのテキストの厚さにビックリしました。

まず、本試験3ヶ月前ぐらいに計画を立てました。最初にまだ勉強していなかった「性質・消火」の第1,2類を覚え、その後に「物理化学」、最後に「法令」を覚えました。「法令」は、乙種第4類のときより覚えることが多く深く勉強しました。さらに、問題が乙種第4類の



平山 優月 ひらやま ゆづき

大分県立鶴崎工業高等学校
化学工学科 3年

よりも複雑で、最初から覚え直しました。「物理化学」は乙種第4類よりもよりたくさんの公式や法則、構造式などを覚えるのに苦労しました。「性質・消火」は範囲が広がっており、共通の性質と例外を間違えないように覚えました。また、YouTubeなどを見て、第1類から第6類の性質を勉強しました。わかりやすかったのでおすすめです。

甲種の勉強を進めていくと、危険物について知識が増え、楽しくなっていました。試験2週間前に、新たに購入した模試に取り組みましたが、知らない問題が多く、改めて甲種の難しさを知りました。試験当日は、事前に忘れやすいところに目を通していきました。「法令」と「性質・消火」は比較的簡単でしたが、「物理化学」はわからない問題がありました。合格発表の結果を見ると何とか合格することができました。そして受験を通じて、化学がより好きになりました。

5 最後に

資格取得に向けてわかるまで教えてくださった先生方と、受験料を負担してくれた家族に、感謝の気持ちでいっぱいです。私は、危険物取扱者試験を通して、勉強を積み重ねることの大切さや、根気強く何かに取り組むことが、この先とても役に立つと思いました。そして難関の甲種に合格したことで自信を持つことができました。資格試験に取り組んだ経験を活かし、これから先も努力を積み重ねて、色々なことに挑戦しようと思いました。

トピック topic

危険物取扱者試験甲種に合格して次のステップへ！！

1. 危険物取扱者試験を受験したきっかけ

私が危険物取扱者試験を知ったのは高校1年生の1学期に受けた前期試験がきっかけです。初受験でしたが無事に合格することができました。更に先輩から『甲種』の話聞いて、取得することで評価してもらえると知り、その取得を新たな目標にしました。

2. 乙種4類の合格を目指して

私の入学した応用化学科では、入学してすぐの6月の危険物取扱者試験を全員受験していました。初めての資格試験ということで、何もわからない状態からの受験でしたが、朝の補習や放課後や休み時間を利用して友人と勉強を進め、知識を深めることが出来ました。

まず、最初に取り掛かったのは、物理化学でした。解き方や公式、法則などを覚えるだけなので、特に苦労はなかったです。

次に性質と消火方法を学習しました。性質も、物理化学と同じで覚えるだけなので、簡単でした。問題は、最後の法令です。初めて聞く言葉が大半を占めていて、頭に入りづらかったです。しかし、模擬試験に取り組み間違えたところを集中的に『復習』することで、余裕を持って合格することが出来ました。

3. 甲種の受験資格を得るために

乙種4類に合格したことで、乙種全類合格を目指すようになりました。その年の11月に1類と6類、3月の特定試験に2類と5類、翌年3類と5類を受験しました。科目免除で法令と物理化学を受けなくてよかったので、性質・消火方法の勉強に集中することが出来ました。



世良 友来 せら ともき
山口県立南陽工業高等学校
応用化学科 3年

1類、5類に特に苦戦しました。1類は性状がややこしく非常に覚えづらかったです。5類は「メチルエチルケトンパーオキシサイド」など、名前が長い上に、「ヒドラジン誘導体」など、名前が非常に似ている化合物が多く、とても覚えづらかったです。

乙種5類だけ、2度受験することになりましたが、学校での朝学習の甲斐もあり、乙種を全類取得し、念願の甲種の受験資格を得ることが出来ました。

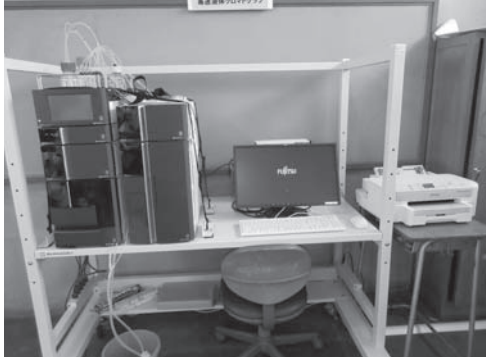
この時、全類の消火方法や性質についての知識をしっかり頭に入れることが出来たため、甲種取得への土台を築くことが出来ました。これがあったため、合格に向けてアドバンテージを得ることが出来ました。



4. 甲種合格に向けて

乙種全類を取得し、私は改めて甲種の受験を意識しました。最後の類を受験する時に甲種のテキストを購入していたため、それを使用しての学習となりました。

使用したテキストは、先輩推薦のものを使用しました。甲種の難しい科目といえば物理化学についてだと思っていたので、まず物理化学を集中的に学習することにしました。logを使用したPHの計算など、まだ習っていない内容が多くあったため、自主的な勉強で理解しました。



やはり物理化学は範囲が広く対策も難しいため、試験の対策というよりは化学の知識を深めることを考えて学習しました。有機化学は、見たことのない言葉や化合物が少なくありませんでしたが、授業や自主勉強、化学を教えてくれる友人などを頼って学習を進めました。一人で進めるより理解をするのが早かったような気がしました。テキストだけで勉強すると、やはり書いてある文言の一語一語に注目しなければならず時間がかかるので、化学を教えてくれる友人がいて良かったと思いました。物理化学はやり方や公式を暗記だけと気づくことで、学習の効率を上げることが出来ました。

次に学習したのは性質・消火方法です。といってもあまりしていません。乙種で出題されるような物質の性状は覚えていたので、甲種で初めて見る物質の性状を覚えて勉強を止め、次に進みました。物質の性状を体系的に理解し、すぐに知識の引き出しから取り出せるようにすると、非常にスムーズに問題を解くことが出来ました。

最後に法令を勉強しました。法令は乙種4類の時とあまり変わりませんが、それでも一番難しいと感じました。化学などと違い基礎知識などもなく、問題文も少しイメージしづらく、そこが体感難易度を上げている要因だと感じました。法令はどれだけ勉強しても不安だったので、試験開始30分前くらいまでずっとテキストの法令を確認していました。法令はテキストに書いてあることを読んで覚えるしか方法がありませんでした。乙種4類の時より法令の問題文が、より考えさせるような内容になったように感じました。ただでさえ大変なのに乙種4類の時より深く理解する必要があったので、非常に苦労しました。全類の主要な物質の危険等級や指定数量を覚えました。これにはあまり苦労しませんでした。貴重な得点源なので、しっかりものにするために必死になっていたのを覚えています。

法令は、「火災の予防・警戒・鎮圧による生命・身体・財産の保護・被害軽減」を目的として定められているので、それを念頭に置いて問題文を読むとなんとなくわか

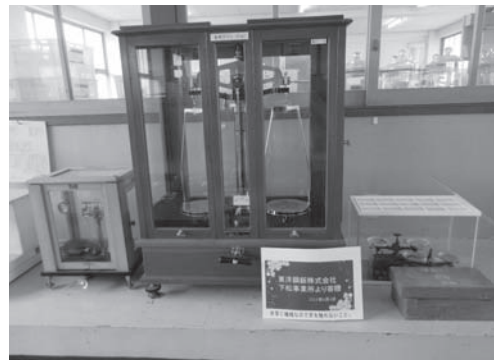
るような気がしました。

この3つをある程度頭に入れたら、模擬試験を繰り返し解き、間違えたところを復習し頭に入れ次の模擬試験を解く、というのを繰り返しました。模擬試験1回分につき40分くらいのペースで10種類ほど解きました。絶対頭に入るし、実戦形式でやることで本番の試験の練習にもなるのでとてもお勧めです。

上記のような勉強をして迎えた試験でした。不安でいっぱいでしたが、終わった後は少し自信がありました。合格発表の日は新型コロナウイルスに感染してしまい、同じ日に乙種を受験した友人と一緒に確認することが出来ませんでした。家で電話していた友人と一緒に2分ぐらい喜んで、家族や友人に合格を伝えるメッセージを送信しました。

5. 合格後と今後について

この甲種合格を通じて、努力が実ることの嬉しさを改めて実感することが出来、自己肯定感が上がりました。その後の定期テストでも概ね満足できる点数を取ることが出来、明確に勉強することに対しての士気が上がっていると感じました。また、高校2年生で合格したのは、本校では初めてということで、誰もやれなかったことを達成できたという事実が嬉しかったです。甲種合格によってジュニアマイスターが大きく加点されたことで、今は特別表彰を目指して頑張っています。甲種を取得するまでにした努力の経験値は、確実に私を成長させているので、これからも日々目標に向け努力していきたいと思いました。



6. 最後に

どうしても、甲種と聞くと自分には厳しいと感じてしまうかもしれませんが、努力はきっと応えてくれます。挑戦し、壁を乗り越えることで人は大きく成長できると思います。努力が苦手な私でもここまで頑張れたことを誇りに思い、残りの学生生活も頑張っていこうと思います。

トピック topic

資格取得の素晴らしさを実感

1. 学校紹介

岡山県立水島工業高等学校は昭和37年、めざましい発展を遂げる岡山県の水島臨海工業地帯の産業を支える工業高校として開校し、令和4年に創立60周年を迎えました。卒業生は2万人を超え、校訓である「誠実は人間最高の善である」を合言葉に、県内外の様々な分野において発展に貢献しています。現在本校は、機械科、電気科、工業化学科、情報技術科、建築科の全日制5学科として、地域社会や保護者に信頼され、期待に応える工業高校を目指し、健康で意欲的な技術者の育成に努めています。



正門・校舎

2. 危険物取扱者試験を受験したきっかけ

私は兄が水島工業高校の工業化学科を卒業しており、入学前から学校や授業の様子、資格取得について様々な話を聞いていました。その時に、危険物取扱者は工業化学科全員が受験する代表的な資格であることを知りました。私は化学に興味があり、就職希望だったため、兄と同じ工業化学科に進学することにしました。

入学してしばらくするとテキストが配られ、2学期が始まると同時に授業の一環として乙種第4類危険物取扱者試験の勉強が始まりました。人生初の国家資格試験だったため不安とやる気が入り交じった気持ちでスタートしました。



中島 愛里 なかしま あいり
岡山県立水島工業高等学校
工業化学科 3年

3. 乙種4類の合格を目指して

資格取得に向けた勉強を何からどのように始めれば良いかわからなかった私は、とりあえずテキストを読むことにしました。始めから最後まで2回繰り返し読み、基礎的な語句の意味や物質の名前などを覚えました。その後、授業での勉強が始まり、先生による詳しい説明やわからなかったところの解説を聞いて、より理解を深める事ができました。試験1ヶ月前から放課後に毎日1時間程度補習をしてもらいました。補習では、ひたすら模擬問題を解いて採点し、間違えていたところはテキストを読み返したり、先生に教えてもらったりしました。問題文の正しい記述にはマーカーを引き、その内容に関する自分が知っていることを隣に書き出すことにしました。私はこの勉強法が自分に合っていると思い、先生に模擬問題を大量にもらい自宅でも解くようにしました。模擬問題を何度も解いていくうちに、自分の苦手な分野やよく出る問題の傾向がわかるようになりました。私は他の科目に比べて法令の点数が低かったため、街でタンクローリーやガソリンスタンドを見た時に、最大容量や給油空地について自然に考えるようになるまで必死に勉強しました。その甲斐あって、模擬試験の点数は徐々に上がっていき、以前は解けなかった問題もわかるようになりました。解けなかった問題ができるようになるのは、ゲームをクリアしていく感覚と似ていて、楽しみながら勉強できました。試験1週間前には3科目とも正解率90%程度を安定して取れるようになり、始めに感じていた不安はすっかりなくなっていました。試験本番も今までどおり、落ち着いて解くことができ、合格できました。初めての資格取得だったため、消防試験研究センターのホームページで、合格者一覧の中に自分の受験番号を見つけたときは、今までにない喜びと達成感を感じました。

4. 甲種合格を目指して

乙種第4類危険物取扱者試験に合格し、もっと難しい資格に挑戦してみたいと思った私は、甲種危険物取扱者試験合格を志すようになりました。卒業までに開かれる試験の回数には限りがあるため、最短で甲種を受験したいと思い、5類と6類を同時に受け、その後に3類を受験する計画を立てました。品名が長く覚えにくい物もありましたが、科目免除により「危険物の性質並びにその火災予防および消火の方法」だけ勉強すれば良かったため順調に合格することができました。これにより4種類以上の乙種危険物取扱者免状の交付を受けている者として受験資格が得られ、ついに甲種危険物取扱者に挑戦することになりました。



高校生ものづくりコンテスト（岡山県大会）

私は最初、甲種取得に向けて沢山勉強しようと意気込んでいました。しかし、実際は受験時期が学校の定期考査や文化祭の準備などと重なっており、思うように勉強の時間が取れませんでした。気が付くと試験日は目前まで迫っていました。焦った私は、とりあえず苦手な法令と取得していない1類、2類を中心にテキストを読み、3から6類の性質、消火は模擬問題を解きながら思い出していく方式で勉強しました。物理学と化学は授業や実習で習ったことが多く出題されていたので、あまり勉強する必要がありませんでした。放課後の模擬試験の出来に納得がいかないまま試験当日を迎えました。試験本番

では分からない問題がいくつかあり、最後まで諦めず解きましたが、手応えはあまりありませんでした。そのため、自分が合格だとホームページで確認した時はとても驚きました。本当に嬉しくて、合格者一覧の画面と自分の受験票に書かれている番号が一緒なのを何度も確認しました。最後まで諦めずに解いてよかったと心底思います。



ジュニアマイスターゴールド表彰

5. 最後に

私は、危険物取扱者試験を通して、資格取得の素晴らしさに気づきました。資格は、自分の努力や実力を証明してくれるお守りのようなもので、夢に近づく手伝いをしてくれるのだと思います。また、資格を持っていると、自分にはこれができるんだという自信につながります。特に甲種危険物取扱者は、私の中でも胸を張って言える資格の1つで、取得してよかったと思います。今後は、今まで支えてくれた人達に恩返しできるように、自分の持っている能力を活かした仕事に就き、社会に貢献したいです。また、これまでに得た知識を使って安全に行動し、自分も周りの人も守れる人になりたいです。

トピック topic

『危険物甲種取得に向けての取り組み』

【危険物取扱者試験を知ったきっかけ】

私が『危険物取扱者』という資格を耳にしたのは高校に入学してからのことでした。環境化学科には乙4類取得に向けた授業があり、クラス全員で合格を目指して受験をします。ガソリンや軽油などの危険物を取り扱う企業等で就職する際に有利になると聞いて、自分の強みのひとつとして役立てられると考え、高校卒業するまでには甲種危険物取扱者を取得したいと強く思いました。

【乙種取得に向けて】

まず私は甲種危険物取扱者への第1歩である乙4試験に合格できるように授業を真剣に受け、試験の1週間前からは必死に自宅学習にも取り組みました。性質・消火の科目がなかなか覚えられなくて大変でしたが、授業で習った語呂合わせなど勉強方法を工夫し、正答率を少しずつ高めていきました。初めての国家資格試験で不安でしたが無事に合格することができ、自分自身の自信にも繋がり、今後さらに挑戦したいと思いました。

乙4類に合格し、甲種の受験資格を得るために乙3・5・6類を計画的に学習し、取得するようにしました。書店で乙種1・2・3・5・6類の問題をまとめた科目免除者用のテキストを購入しました。乙3類は、品目が多い上に炎色反応や水と反応して発生するガスなどを覚えなければいけないため、個人的に乙4類を除いた乙種試験の中で1番苦戦しました。勉強を続けていてもなかなか頭に入らない時期もありましたが、自作ノートに独自に考えた挿絵を描いて覚えるなど工夫を凝らしました。視覚的に一目見ただけで理解できる形にすることで記憶に残りやすくなり、正答率90%で合格することができました。

翌年5月には乙5・6類の複数受験に挑戦しました。春休みやゴールデンウィークがあり、まとまった勉強時間を確保することが出来たこと、一緒に受験する友人がいてくれたことで頑張ることができました。友人とは学校の休み時間や放課後の時間に問題を出し合い、学習に励みました。乙5類は品目の似た危険物が多く、区別して覚えるのが大変でしたが、繰り返しノートに



竹中 菜々子 たけなか ななこ
福島県立福島工業高等学校
環境化学科 3年

書き込みをして覚えました。試験は乙5・6類とも正答率100%で合格することができ、達成感を得ることができました。

【甲種取得に向けて】

乙3・乙4・乙5・乙6類を順調に取得し、目標である甲種取得の受験資格を得ることができました。しかし、ここで大きな不安がありました。今まで得た知識をすべて覚えていない点と優秀な先輩が不合格だった点です。そんなときに助言を求めて親に相談した際、『失敗を恐れず甲種を目指しなさい』と背中を押され、不安がなくなったことを今でも鮮明に覚えています。

試験の約2ヶ月前の9月に甲種のテキストを購入しました。想像よりも分厚く、内容は難解で自分の考えの甘さを痛感しました。しかし、目標を立てた以上、短い期間の間でもテキスト1周はできるように勉強計画を立て奮起しました。ところがそれは切羽詰まった無謀な計画ともいえました。始めは順調でしたが、修学旅行や文化祭で気が緩み、何事も先延ばしにする癖がはじめ、計画通りには進めることができませんでした。結局、重要なところだけに絞って勉強するやり方に方針転換してテキストを進めていきました。効率性を求めてノートは使わずテキストに直接書き込んで問題を解き、既に理解している乙3・4・5・6類の勉強は割愛しました。

11月中旬、ずっと遠い未来のことのように感じていた試験当日をとうとう迎えてしまいました。試験会場に着き、心配だった法令と指定数量の復習を待ち時間で行いました。試験本番の問題は、直前に復習した問題や、学校の化学の授業で習った問題が出てきて解くことができましたが、やはり乙種の試験より難易度が圧倒的



福島県高校生ものづくりコンテスト2022化学分析部門

に高くなっていて全く分からない問題もありました。1時間が経過し、会場からどんどん人が居なくなっても焦らず、ケアレスミスだけはしないように繰り返し見直し、席を立ちました。

約3週間後、『合格』の通知がきたときは嬉しいという感情以上に大きな達成感を得ることができました。法令と物理化学の正答率が60%であと1問でも間違えていたら不合格でした。最後まで粘り強く勉強していた良かったなと思います。免状が届くと甲種を取得した実感が湧き、しばらく眺めていました。

【おわりに】

私にとって甲種危険物取扱者取得は高校生活の大きな節目になりました。先生方から褒めていただいたり、学校のお便りで難関資格取得者として紹介されたりと、初めての経験をして自分を誇りに思えるようになりました。そして合格したと告げたら自分のことのように喜んでくれた家族や友人には感謝の気持ちでいっぱい、恵まれた環境にいるのだなと再認識するきっかけにもなりました。

危険物取扱者取得全般を振り返ると、私は大きくわけて2つのことを学べたと思います。1つ目は自分の勉強方法です。乙4類の勉強をしていたときは資格取得のコツや勉強の工夫の仕方などを全く知らなかったのが、がむしゃらに突き進んでいました。しかし、乙3・5・6類の勉強をするときはだんだんと自分なりのコツを掴んだり、工夫したりできるようになりました。今後の資格取得や学校での考査に向けて自信ができました。2つ目は諦めないことの大切さです。甲種取得に至るまで何度もやめたくなりました。趣味や友人と過ごす時間が削られることはわかっていたのですが、正直辛かったです。それでも両親や友人の喜ぶ顔が見たく、また自分自身の成長のためにと必死で取り組んだ結果、合格することができました。そして私は、常日頃から座右の銘である「人事を尽くして天命を待つ」という言葉を念頭に置いて生活しています。できることは可能なかぎり最善を尽くして、その結果は運命に任せる、という意味です。人事を尽くさないと天命を待つことも出来ないと解釈し、気持ちを引き締め、これからまた新しい目標に挑戦するときは今回の甲種取得のときに学んだことを活かして最善を尽くしていきたいと思います。

トピック topic

甲種危険物取扱者試験合格までの道のり

【受験のきっかけ】

私が危険物取扱者の試験を受験したきっかけは高校のパンフレットに「危険物取扱者」と記載があったからです。中学2年生頃から延岡工業高校に行きたいと考えていて、高校説明会の際に頂いた学科紹介の欄に取得を目指す資格の一覧がありそこに危険物取扱者の名前がありました。この時はどんな資格なのかもわからなくて、この高校に入学すれば受けることになるんだろうなあとという感じでした。

ですがいよいよ入学し始業日からいきなり危険物取扱者の説明を受けました。入学して間もない高校生活第一歩目は危険物取扱者取得のための勉強だったのです。

【受験状況】

きっかけで説明した通り、入学直後から取得のための勉強が始まった為逃げ道はなく、やるしかないという感じでした。正直もっと自主的に資格を取得していくものだと考えていたのでかなり驚きました。ですが今思えば先導して貰えなかったら勢いに乗ることが出来ずに甲種危険物取扱者取得まで手が届かなかったのではないかと考えていて、学科の先生方には感謝しています。

【勉強方法】

私が資格取得のためにしていた勉強法をあげるとすれば、問題を解き間違いを正していくということです。ごく一般的な勉強法ですが私はそこに一工夫していて、例えばわからない問題があっても、その時は調べずに一度勘で答えを書き、丸つけのタイミングで調べるようにしました。わからなくてすぐに調べてしまうと記憶に残らないので、数分思考してもやもやを残しておくことで調べた時に強く記憶に残すことができたのではないかと考えています。周りの人の勉強法を聞いてみて、すぐに調べてたくさん問題を解いた方が効率的ではないかとも考えましたが、次また同じ問題を間違えては本末転倒だなと思います。



渡邊 蒼 わたなべ あおい
宮崎県立延岡工業高等学校
環境化学システム科 3年

【乙種4類への挑戦】

入学して一番始めに挑戦した危険物取扱者は乙種4類でした。危険物取扱者の資格の中でも一番人気があってたくさんの方が受験している乙種4類ですが、合格率はせいぜい40-45%ぐらいの資格だという情報を聞いていたので最初は身構えていました。受験者が多い分合格率としての数値は下がるとしても5割を下回るとなるとかなり大変なのではないかと思っていました。入学してから早々に朝課外が始まり、朝から危険物の勉強を始めましたが最初はやはり何を勉強しているのかわかりませんでした。基礎化学の所だけは化学が好きということもありずっと内容が入ってきましたが、法令、性質となるとなかなか頭に入ってきませんでした。朝一で勉強していることもあり朝課外中は眠気とも戦いながらの勉強だったので、勉強した後の小テストのような形で挑戦した模擬問題は全然正解できず本当に受かるのかな、と心配になりました。初めの方こそ、ただ先生の話聞きながら参考書を読み蛍光ペン等で大事なところにマーキングしていただけでした。自分は一貫した実践的な勉強の方が好みでずっと何も考えず参考書に線を引く作業はかなりつらかったです。ですが後々間違えた問題で参考書を見て調べようと思ったときに、蛍光ペンで線が引いてあるとすぐ探すのが簡単だし便利だったので、参考書への線引きはかなり重要な要素だったなと思いました。参考書への線引きも終わりいよいよ本格的に模擬問題を解き始め一番最初に直面した壁が時間です。学校だと実際の試験時間より短い時間で解き終わる必要がありスピードと正確さが求められました。スピードについては実際はもっと時間があるのだからそんなに気にしなくてもいいのではないかと思います。しかし試験当日は緊張していてミスもたくさんあるだろうから見直しの時間も多

用意するために、より速く解くことができれば自信が付き合格にも繋がってくるのではないかと感じました。模擬問題を解き始めて間もないときはどの分野も4.5割ぐらいで正直勘で答えている問題も多くなかなか合格点が出ているとは言いえない状態でした。

ですが試験日当日も近づいてきて夕課外も始まったところでさすがに自分の点数に焦りと不安を感じ、自分で問題集を買って家でも勉強を始めました。試験までに模擬テストを100回はやったんじゃないかなと思います。でも模擬テストをこなしていくたびに段々問題の読み取り方やパターンがわかってきてこの経験値がすごく合格への一歩になったと思っています。

【資格取得後の状況】

危険物乙種と甲種を取り終えた私ですが今のところ特に変わったことはありません。自分がまだ高校生だからということもあると思いますが役に立ったと思える場面が就職活動の時ぐらいかなと思います。自分が実際に危険物を扱う仕事についてようやく、たくさんの時間を費やして取った危険物取扱者の真価が発揮されるのではないかと考えています。また甲種危険物取扱者に合格してからは危険物取扱者以外の難易度の高い資格に挑戦してみたいという意欲と自信も生まれたので1つでもいいから資格取得を目指してみるといいのではないかと考えています。

【資格取得までを振り返って】

資格取得までを振り返ってみて、自分で言うのも恥ずかしいですが結構頑張ったほうじゃないかと思っています。勉強していくなかで問題が解けずにブルーになることもあったので自信を保つことも大変でしたし趣味の時間との両立にもかなり苦労しました。それでも国家資格というものに触れることができ、そして取得までできたこの体験はとても充実していて将来必ず役に立ってくれるのではないかと強く期待しています。物事がうまく進まずに挫折しそうになったこともたくさんありましたが、勉強のモチベーションを作ってくれた周りの友達とこういった資格取得のチャンスを作ってくれた学校の先生方には頭があがりません。

こういった経験を高校生活でできたことがすごくうれしい思い出になったなと思っています。



渡邊に続き甲種免状取得したクラスメイトと一緒に
(左から田原淳光、渡邊蒼、後藤莓花)